

活動テーマ

若者 Z 世代が好む柑橘製品の開発

ときがわ町大附地区 十文字学園女子大学

## 1 活動目的

「若者 Z 世代が好む柑橘製品」をコンセプトとしてときがわ町の特産柑橘である「福みかん」を使った清涼飲料水やお菓子、琥珀糖の開発を行い、特徴や魅力をより多くの人に知ってもらうこと、さらに高齢化が進む柑橘農園の収穫作業の手伝いや地域の伝統的な祭りに参加することで、柑橘産業の振興や地域活性化に貢献することを活動目的とした。

## 2 活動地域の現状

ときがわ町の人口は 10,403 人（令和 6 年 2 月 1 日時点）で昨年から 100 人程度減少しており、過疎化が進んでいる。また、若者の減少や少子化の進行が原因となり、柑橘農園など農業事業者の高齢化が進んでいるため、後継者が見つからず、衰退していることが深刻な課題となっている。

## 3 活動内容

本学学生は、未利用資源であった「福みかん」を有効活用し、PR をすることで地域に貢献することを決定した。福みかんを使い若者 Z 世代に向けた柑橘製品を開発することで若者に地域を訪れてもらうことを考え行動した。本学生とときがわ町の地域の方々に「福みかん」の清涼飲料水のネーミングやラベル案など本活動に関する意見交換会を実施し、福みかんの収穫、商品企画、加工、販売を行った。さらに、伝統的な祭りである「ささら祭り」への参加など積極的な交流を行うことで地域の方と友好的な関係を築くことができた。

## 4 成果

テーマであった「若者 Z 世代が好む柑橘製品の開発」については、福みかんジュース（商品名：フォーチュンオレンジ）、福みかんマドレーヌ、福みかんを使った琥珀糖を開発することができた。また、これらの商品を製作するにあたり、意見交換会の実施や「福みかん」の収穫、ネーミングやラベルの制作、原材料の配合まで一貫して取り組み「フォーチュンオレンジ」の共同開発を行った。完成した商品を 2 月 7 日に行われた埼玉県農商工連携フェアに出展し、広報 PR 活動を行うことで、ときがわ町の魅力や福みかんの認知度の向上に努めた。今後は、ときがわ町の直売所や地域の一部のコンビニエンスストア、学内の売店を通して販売、広報活動を続けている。

## 5 課題

福みかんの収穫には、多くの人数と体力が必要であり、今後、製品の販売を継続していくには、町民のみでの収穫では限界がある。さらに、11 月頃からしか収穫作業を行う

ことができず、毎年の収穫量が異なるため、計画的に活動を行えないことが課題である。  
「福みかん」の特性をさらに調べることに、柑橘農園の衰退化が今後の課題である。

## 6 次年度以降の計画

次年度は、「福みかん」を活用した食品のレシピの開発を行うことで、地域の洋菓子店や物産店との交流を深めるとともに、地域の方との関係性をより良いものにしていきたい。また、町民の方が望む食品を「福みかん」を使って製作することで、より柑橘類の栽培を促進していきたい。

以上



ときがわ町大附中央会館で「若者 Z 世代が好む柑橘製品」をコンセプトとした  
昨年度の活動成果報告会、今年度の活動計画のグループワークを実施した  
(2023 年 9 月)



学生全員参加で福みかんの収穫、皮むき、搾汁準備を実施した (2023 年 11 月)



埼玉県農商工連携フェア (さいたまスーパーアリーナ) に「福みかん」商品を展示し、  
「ときがわ町」と「福みかん柑橘製品」の広報活動を実施した (2024 年 2 月)